

重点1 毎日の授業の充実

2 学びの一体化

ねらい

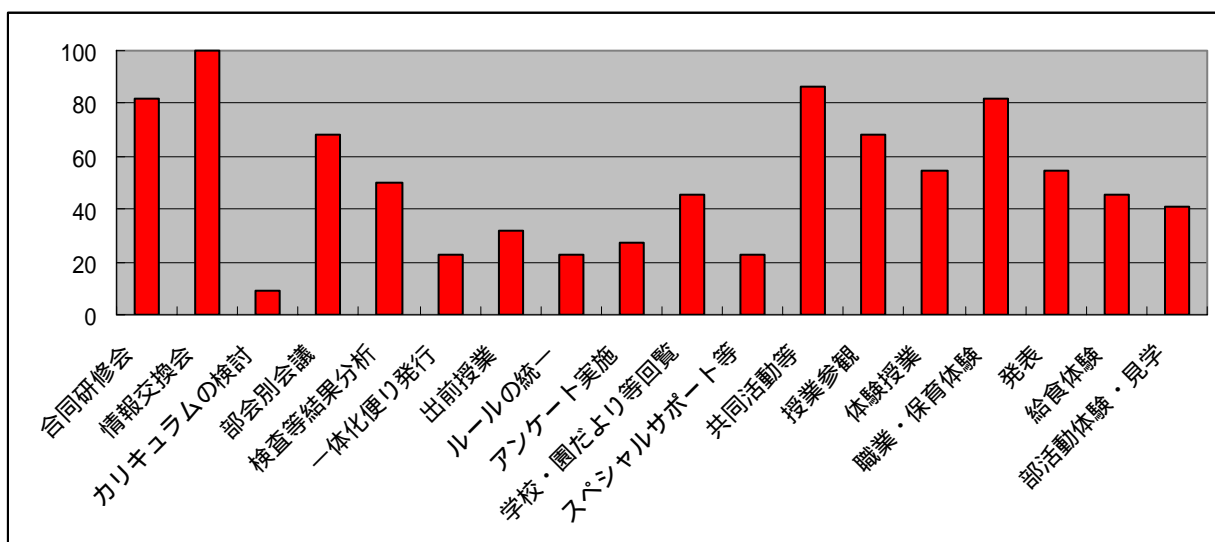
学びの一体化では、幼稚園・小学校・中学校が協働して子どもの教育に携わることをめざしています。そこでは、一人一人の学びを連続したものにすることで、「確かな学力」と「健やかな成長」の充実に努めています。

本市のめざす学びの一体化は、小学校6年間、中学校3年間の区切りはそのまま大切にしながら、これまで以上に小・中学校が連携することで、新しい教育力を生み出すことをめざすもので、幼稚園も含め11年間を見通した連携も視野に入れて取組を進めています。

現状と課題

平成20年度の各中学校区の活動

<22 中学校区における各活動の取組の割合（％）>



表のように、各中学校区では、校区の実状に応じた取組を着実に積み重ねています。

また、授業公開等を通して子どもの姿を見ることで、各中学校区の課題が明らかになるとともに、子どもの実態や相互の指導方法等について情報交換することができるようになりました。

さらに、中学校区の教員が互いに知り合い、交流や意見交換をしやすくなるなど、各中学校区の課題や今後の方向性を明らかにしたうえでの取組が実践されるようになってきました。

課題

しかし、以下のような課題も明らかになってきています。

学校現場は、多忙化の中で活動時間の捻出や調整に苦慮しています。そのため、担当者に多大な労力がかかるとともに、ダイナミックな活動ができない現状があります。

各学校にはこれまでの研修の積み重ねがあるため、中学校区で「学びの一体化」のもとに研究の方向性を一本化できず、一丸となった取組となりにくい現状もあります。

喫緊の教育課題が山積する昨今の学校の現状、学びの一体化の推進をマンパワーに頼るしかない現状等もあって、教員が「学びの一体化」の有用性を実感しにくい状況にあります。

今後の改善方針

現状打開への糸口

そこで、現状の課題を打開するため、子どもの基礎学力の定着などに実績を上げている「富洲原中学校区」と、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育により幅広く成果を上げている「にしみたか学園（東京都三鷹市）」の先進地域の実践を参考に取組を進めます。

今後の構想

「学びの一体化」の中核組織である推進協議会は、平成 21 年 3 月、次のような「今後の構想」を各学校に提言しました。

(1) 「幼稚園及び小・中学校における研究体制と指導の一本化」

中学校区で一丸となった取組を進めるため、幼・小・中における研究体制と指導の一本化によって、各学校が「学び合い」を導入した各教科の授業改善を図り、「健やかな成長」と「確かな学力の育成」を連動させることを目的とするものです。

(2) 「中学校との連携による小学校高学年における教科担任制の導入」

中学校との連携による小学校高学年における教科担任制を実施することで、小・中学校双方の指導の改善を図り、小中学校の滑らかな接続を促進させるというものです。

＜平成 20 年度 小学校における教科担任制の状況＞

教科 学年	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育
1 学年	3 校					5 校			
2 学年	8 校					12 校	3 校		
3 学年	16 校			3 校		28 校	13 校		
4 学年	13 校	1 校		2 校		33 校	22 校		
5 学年	9 校	1 校		3 校		32 校	11 校	28 校	4 校
6 学年	13 校			5 校		32 校	10 校	29 校	2 校

ここでの教科担任制とは、学校として一部の教科について、教員の得意分野を生かして、年間を通じてある学年の全学級を対象に実施している場合をさします。なお、国語は、多くは書写での実施です。

今後の動き

平成 21 年度の「学びの一体化」の活動では、推進協議会から提言された「今後の構想」の実施に向けて、公募により先進的な実践をするモデル校区を選定します。

そして平成 22・23 年度の 2 年間にわたるモデル校区の実践から、その成果と課題を整理したうえで、平成 24 年度から、提言された「今後の構想」を全市的に展開していく予定です。

そのほか、平成 21 年度から、幼稚園教員が教科部会の委員として参加する教科を増やすなど、就学前教育と義務教育との一層の連携を図ります。